

有識者会議の意見（たたき台）

1 治水の観点から

- ・ 地域が水害を受けやすい地形特性、頻繁に水害被害に遭っている現状から、早急な治水対策が必要。
- ・ 地球温暖化に伴う気候変動に伴い、現在想定しているよりも強く、多い雨が降る可能性があり、より高い治水安全度を確保することが重要。
- ・ これ以上の、堤防の嵩上げ、川幅の拡幅（引提）や河床の掘削の可能性については、社会的、環境的、経済的に課題が大きい。
- ・ 少子高齢化が進み、地域の防災力低下が見込まれる地域では、仮に、今、一定程度の洪水を許容できても、将来にわたってそれが可能なのか。
- ・ ダム等の洪水調節施設を建設する場合、治水上一定の限界があるものの、これまであげた対策の中では最も大きい流量を処理できる。

2 環境の観点から

- ・ 生物多様性の保全という観点から重要なことは、山から海までをつなぐシステムとしての河川機能、水量や土砂、生物等の連続性を確保すること。
- ・ ダムにより、河川のシステムが大きく変化してしまうことは明らか。
- ・ 順応的管理の考え方からは、不可逆的な変化を起こしてしまう可能性がある場合には、予防的なアプローチで対処すべきである。
- ・ ダムのような構造物の建設は、できる限り避けた方が望ましいが、建設せざるを得ない場合は、環境への影響をできるだけ軽減する必要がある。

3 持続可能な地域づくりの観点から

- ・ 球磨川の豊かな自然は大きなプラス材料であるが、洪水によって生命・財産の危険に見舞われることは、大きなマイナス要因となる。
- ・ 人口減少、少子高齢化の中で、地域の持続的な維持・発展を考えるならば、定住人口の確保や交流人口の増加のため、地域の魅力を上げていくべき。
- ・ 現世代、将来世代のために、安全・安心に暮らせる地域社会を創造するためには、治水対策を優先課題として位置付けるべき。

4 まとめ

- ・ この地域において、ダム等の洪水調節施設を用いた治水対策が行われることに一定の理解を示すが、それは「現行の川辺川ダム計画」を是認するという意味ではない。
- ・ 現行の川辺川ダム計画には、環境に対する影響について再度検討、検証すべき点、環境的な考え方を取り入れ工夫を重ねるべき点がある。
- ・ 現行の川辺川ダム計画については、地球温暖化といった新たな問題の提起や、利水・発電の撤退といった状況の変化等を踏まえ、計画を見直す必要がある。
- ・ 仮にダムを建設する場合には以下の点を考慮、検討すべき。

ダムが環境に与えるリスクの認識、新たな手法、技術の導入の検討及びでき得る限り環境への影響の回避、低減。

流域全体を視野に、治水と環境を両立させる可能性の模索。

事業の費用対効果の十分な検証。

情報伝達体制、避難警戒体制などをハード手法と組み合わせるなど、安全性を高める総合的な治水システムの構築。